

シュローダー・スナップショット

マルチアセット・ビュー
グローバル市場見通し

2025年7月

見通しの表示： ● 強気 ● 中立 ● 弱気 矢印：対前月での見通しの引き上げ/引き下げ

株式	国債	社債	コモディティ（商品先物）
株式に対する選好姿勢を維持します。世界経済を巡る不確実性、それによる企業行動への影響を注視する必要がありますものの、ダウンサイドリスクは限定的と考えます。よって、直ちに景気後退に陥る可能性も低いと考えます。	米国において、債務水準の上昇やインフレが再加速するリスク等、中期的な懸念が残ることから中立の姿勢を維持します。インフレ圧力がより限定的である米国以外の地域を選好します。	米国を中心にバリュエーションは割高である一方、堅調な労働市場、良好な消費者信頼感など、シクリカル的要因が改善基調にあることを好感し、中立とします。	産業用金属について、供給が限定的であるものの、需要が低迷していることを踏まえ、中立とします。金については、各中央銀行の需要等を踏まえ、強気を維持しています。そのほか、エネルギーを中立に引き上げました。

資産クラス	分類	見通し
株式	米国	堅調な消費データや労働市場の安定性、エネルギー価格の下落等を受けて、強気の見通しを維持しています。また、経済成長を促すような政策が米国経済成長およびセンチメントを下支えすると期待します。
	欧州	バリュエーション水準や欧州企業の業績見通し、資金流入動向等を踏まえ、強気の見通しを維持しています。
	日本	マクロ要因が追い風になるほか、関税を巡る確実性が増していることも日本株式に恩恵をもたらすと考え、強気の見通しを維持しています。
	アジア（除く日本）	中国については、内需低迷やインフレ動向に対する懸念から中立とします。また、関税協議には進展があるものの、アジア市場の中国貿易動向に対する依存度が高いことも注視しています。
	新興国	ドル安、貿易交渉、一部新興国における支援的な政策などが支援材料になると考え、強気の見通しを維持しています。

最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご覧ください。本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第90号

加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

Schroders

資産クラス	分類	見通し
国債	米国	 国債の供給増加により、利回りがより高い水準で維持される可能性があると考えており、弱気の見通しを維持しています。また、米国債市場では、リスクオフ環境で通常みられるディフェンシブな特性がみられなくなっています。
	欧州 (ドイツ国債)	 安全資産のポジションとして、ドイツ国債への選好を維持しています。ドイツの財政規律は維持され、インフレは抑制されることが見込まれます。
	新興国 (現地通貨建て)	 新興国債券に対して強気の見通しを維持しています。新興国の中には支援的な政策を実施している国もあるほか、ドル安や高いキャリーも支援材料となると考えます。
	米国インフレ 連動債	 コモディティ価格の下落により、関税の影響が相殺されるとみて、中立の見通しとしています。
投資適格 社債	米国	 バリュエーションは引き続き割高な水準にあり、関税を巡る不透明感も残っていますが、テールリスクが後退したことから、市場参加者の焦点は規制緩和や財政刺激策に向かうことが見込まれます。
	欧州	 中立の見通しを維持します。底堅い経済成長や旺盛な需要、ポジショニングの改善などを好感します。また、欧州投資適格社債のスプレッドは米国に比べ魅力的であると考えます。
	新興国 (米ドル建て)	 バリュエーションが割高と判断されることから、中立の見通しを維持しています。同市場はアジアに集中していることから、関税の影響を受けやすい資産と考えます。
ハイイールド 社債	米国	 バリュエーションの魅力度は低いものの、経済成長の安定化や、需要の改善、上向きの消費者心理などが支援材料となると考えます。
	欧州	 中立の見通しを維持しています。経済成長見通しが良好であるほか、欧州資産に対する需要も増加基調にあると考えます。

最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご覧ください。本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

資産クラス	分類	見通し
コモディティ (商品先物)	エネルギー	 OPEC+ 加盟国による供給は増加しており、季節的な需要減速も相まって在庫水準が増加し、原油価格は下落する可能性があります。ただし、市場のポジションはショートに傾斜していること等から反発する可能性もあるため、中立とします。
	金	 分散投資効果を期待するほか、財政赤字を巡る懸念や地政学的緊張の高まりを背景とした安全資産需要から、強気の見通しを維持しています。
	産業用金属	 通商拡大法232条に関する憶測から銅市場ではボラティリティが高まるなど、短期的なノイズが生じているほか、世界的な需要の伸びが鈍化していることも踏まえ、中立の見通しを維持しています。

資産クラス	分類	見通し
通貨	米ドル	 安全通貨としての機能が低下していること、米国政策を巡る不確実性を背景に、弱気の見通しを維持しています。
	ユーロ	 バリュエーションが魅力的であることから、強気の見通しを維持しています。市場では、米ドルへのエクスポージャーを削減し、ユーロにシフトする流れが続いていると考えます。
	日本円	 賃金およびサービス・インフレの動向のほか、日本銀行の金融政策正常化観測などが円の支援材料となると考え、強気の見通しを維持しています。

本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

出所：シュローダー。社債に関する見通しは信用スプレッド(デレーション・ヘッジを前提)の動きに基づくものです。ユーロと日本円は対米ドルの見通しとなります。

【本資料に関するご留意事項】 本資料は、情報提供を目的としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を意図するものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知うる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、内容の正確性あるいは完全性については、これを保証するものではありません。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。シュローダー/Schrodersとは、シュローダー-plcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。

投資で、変化を加速

1870年（明治3年）、日本初の国債発行の主幹事として鉄道敷設に貢献したシュローダー。

この一つの投資が日本近代化の一步となったように、

投資は世界を変えていく力になると私たちは信じています。

「増やす」だけじゃない、よりよい明日をつくる投資を、これからも、皆さまとともに。

